長崎県ミュージアム連携促進事業
長崎県内ミュージアム情報誌
vol. 1
2013年 春号
MUSEUMS IN NAGASAKI PREFECTURE

ミュージアム県ながさき

【特集】海底遺跡とミュージアム

松浦市立鷹島歴史民俗資料館
松浦市立鷹島埋蔵文化財センター
小値賀町歴史民俗資料館

ミュージアムの人々
ミュージアム逸品紹介
自慢の体験プログラム
建物探訪
MUSEUM★TOPICS

長崎県

【特集】海底遺跡とミュージアム

鷹島、対馬、壱岐…元寇の歴史にふれるミュージアムと島めぐり

**日本が初めて外国大軍の侵攻をうけた戦争
それが今から700年以上前に起こった「元寇」
2度にわたる元軍の攻撃によって
かつてない惨劇の舞台となった対馬、壱岐、鷹島には、
今も壮絶な戦闘の悲話が語り継がれている**

日本初、海底遺跡が国史跡に指定された鷹島へ

元の皇帝フビライは、2度にわたり数万、十数万の大軍をおくって日本征服をはかりました。これをわが国では蒙古襲来、文永・弘安の役といい、また江戸後期の攘夷思想とからめて元寇というようになりました。長崎県はその攻撃を受け、鷹島などはかつてない惨劇の舞台となりました。700年以上も昔の出来事ですが、戦場となった土地には、忘れてはならない悲しい歴史として史跡や碑などが残されています。今回は、そんな「元寇」ゆかりの地と関連する資料を収蔵するミュージアムを巡る旅に出ました。

最初に訪れたのは、元寇の古戦場として知られる鷹島。幸いお天気に恵まれ、快晴の中を平成21年に開通した鷹島肥前大橋を通って鷹島に上陸。まずは平成24年8月にできた真新しい展望所で、大陸からの風に思いを馳せながら深呼吸。展望所からのぞむ伊万里湾は、どこまでも青くやすらかで、遠い昔に大軍を相手に戦いの舞台となった面影はどこにもありません。

松浦市立鷹島歴史民俗資料館近くの国史跡鷹島神崎遺跡展望所から伊万里湾を望む

長崎県には、歴史、民俗、美術、自然科学、産業などをテーマとした特色あるミュージアムが各地に数多くあります(H23年度末現在161施設)。本県では、平成22年度より、これらのミュージアムを地域の大切な文化資源として、より魅力ある地域づくりのてことするため、各施設の活性化と施設間の連携を進めていく「長崎県ミュージアム連携促進事業」を推進しています。

本情報誌は、この事業の一環として、県内所在の美術館、博物館、動水植物園等のミュージアム各館の魅力と取組を、様々な角度から、皆様に広くご紹介していくもので、あわせて各ミュージアム周辺の文化資源等もご紹介いたします。

本情報誌を、各施設の基本情報等を掲載しておりますウェブサイト「ミュージアム県・ながさき」(http://tabinaga.jp/museum/)ともあわせて、県民の皆様をはじめ、県外から観光等でお越しになられる皆様に気軽にご利用いただけましたら幸いです。

平成25年2月

長崎県企画振興部文化観光物産局文化振興課

長崎県ミュージアム連携促進事業　長崎県内ミュージアム情報誌
ミュージアム県ながさき

Contents

1 【特集】海底遺跡とミュージアム
松浦市立鷹島歴史民俗資料館
松浦市立鷹島埋蔵文化財センター　ほか

11 [コラム]海底遺跡が語る、小値賀島の姿。
小値賀町歴史民俗資料館

12 ミュージアムの人々
山本美術館
南島原市口之津歴史民俗資料館・海の資料館
長崎歴史文化博物館

15 ミュージアム逸品紹介
長崎純心大学博物館
五島観光歴史資料館
松浦史料博物館

18 自慢の体験プログラム
コスモス花宇宙館
波佐見町陶芸の館・観光交流センター

20 建物探訪 佐世保市世知原炭鉱資料館

21 MUSEUM★TOPICS

[特集取材協力]
松浦市教育委員会文化財課、松浦市立鷹島歴史民俗資料館
松浦市立鷹島埋蔵文化財センター、鷹島モンゴル村
壱岐市教育委員会文化財課、壱岐市立一支国博物館
長崎県立対馬歴史民俗資料館、本馬貞夫氏

[画像提供]
九州大学附属図書館(『蒙古襲来絵詞』:表紙、p.2-3、p.4-5)
長崎県教育委員会学芸文化課(《銅造如来坐像》:p.6)
小値賀町歴史民俗資料館(調査風景、出土物、施設外観:p.11)
長崎純心大学博物館(「牢面桶」、舟越保武《聖女像》:p.15)
五島観光歴史資料館(「椿のレリーフ」、「伊能家文書坂部貞兵衛書簡」:p.16)
松浦史料博物館(「紺糸威肩白赤胴丸」、「伝オランダ船船首飾木像」:p.17)
コスモス花宇宙館(施設外観、「アンドロメダ大銀河M31」「土星」:p.18)
長崎市文化財課(旧出津救助院外観:p.21)
親和アートギャラリー(施設内部:p.21)
壱岐市(壱岐市立一支国博物館外観:裏表紙)
壱岐市立一支国博物館(キャラクター:裏表紙)
裏表紙使用そのほかの画像は、長崎県文化観光物産局提供のもの。

表紙:椪(松浦市立鷹島埋蔵文化財センター蔵)　『蒙古襲来絵詞』(九州大学附属図書館蔵)

ミュージアム県ながさき　平成25年2月発行
企画・発行=長崎県文化振興課　デザイン=デザインスタジオ ヨンエフ
写真撮影=松尾順造　取材・編集=企画編集スタジオ ノンブル　印刷=(株)藤木博英社
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載および複写を禁じます。

2度目の襲来となるのは今から730年ほど前の弘安4年（1281）7月30日の夜。日本侵攻のために集結した元の大艦隊を大暴風雨が襲い、と14万人といわれる鷹島沖に集結した4400隻の船とくに江南軍は大半の船が海底に沈んでしまったといわれています。その史実を裏付けるように、昔から鷹島沖では壷類や刀剣、碇石などが地元の漁師などによって海底から引き揚げられていましたが、周知の埋蔵文化財包蔵地となってからは、昭和56年より港湾工事の前に、海底の緊急調査が行われ、以降、数多くの元寇関連の遺物が発見されています。さらに平成23年には元の軍船が発見されたことで、全国的なニュースになりました。それまでは、肥後の御家人であった竹崎季長が描かせた『蒙古襲来絵詞』（鎌倉時代、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵）が、信ぴょう性のある元寇船の資料でしたが、実際の船が発見されたことで、さらに詳細がわかってきました。文部科学省は、翌年3月、元の軍船や遺物が発見された鷹島町の沖合い海域を、海底遺跡では日本初となる「鷹島神崎遺跡」として国の史跡に指定しました。

展望所に設置された「歴史ビジョン」という双眼鏡を覗くと、現在の風景に730年前に元軍の船が湾を覆い尽くすように押し寄せた光景がオーバーラップして映し出されるようになっていました。目の前のこの海で、日本史を動かす戦いがあり、また10万人もの人命が失われたであろう事実に対して胸が塞がるような思いでした。

管軍総把印（県指定有形文化財）
パスパ文字で「管軍総把印」と刻印してある。パスパ文字とは、元の世祖フビライが元の国字としてチベット僧パスパにつくらせましたが、元が滅ぶとともに使われなくなりました。

松浦市立鷹島歴史民俗資料館

住所：〒859-4303 松浦市鷹島町神崎免151番地
TEL:0955-48-2744
URL:http://www.city-matsuura.jp/www/contents/1227840289309/index.html

■開館時間　9:00～17:00
■休館日　月曜、年末年始（12/29～1/3）
■観覧料　一般300（230）円、小中高生140（110）円
（ ）は10名以上の団体
※隣接する市立鷹島埋蔵文化財センター入館料含む

海底から奇跡的に発見された数々の貴重な遺物と対面

復元された元軍の投石機の説明をする
山下寿子学芸員

海底調査によって発掘された貴重な元寇の遺物は、展望所からすぐの「松浦市立鷹島歴史民俗資料館」と「松浦市立鷹島埋蔵文化財センター」で公開・展示されています。館内を案内してくださったのは学芸員の山下寿子さん。鷹島の歴史を知り尽くした方で、とても面白くわかりやすく解説をしてくれます。

松浦市立鷹島歴史民俗資料館は、「元寇終焉の地」をテーマに、鷹島周辺に沈んだ元寇の遺物などを展示。中でも貴重な品として展示されているのが、青銅製の印鑑「管軍総把印」。印面幅6.5cm×6.6cmで、重さ726g。鷹島南岸の神崎海岸で漁師さんが貝掘りをしているときに偶然発見したもので、平成元年に県有形文化財に指定されました。

また、当時の武士たちを驚かせたと言われ、元寇の合戦の様子を描いた『蒙古襲来絵詞』の中にも登場している炸裂弾「てつはう（てっぽう）」の実物も展示されていて、そのリアルさにびっくり！水深6～9mの場所から見つかったというソフトボールほどの大きさの陶器製の球。これに火薬や鉄片を詰めて火をつけて投石機のようなもので投げ、空中で炸裂させたというのですから、当時の日本の武士たちがひるんで目を丸くしたというのも納得です。

てつはう
鷹島の海底からは「てつはう」の他にも鉄製の冑や刀剣などの武器類も出土したことにより、『蒙古襲来絵詞』に見られる元軍の様子が証明されました。

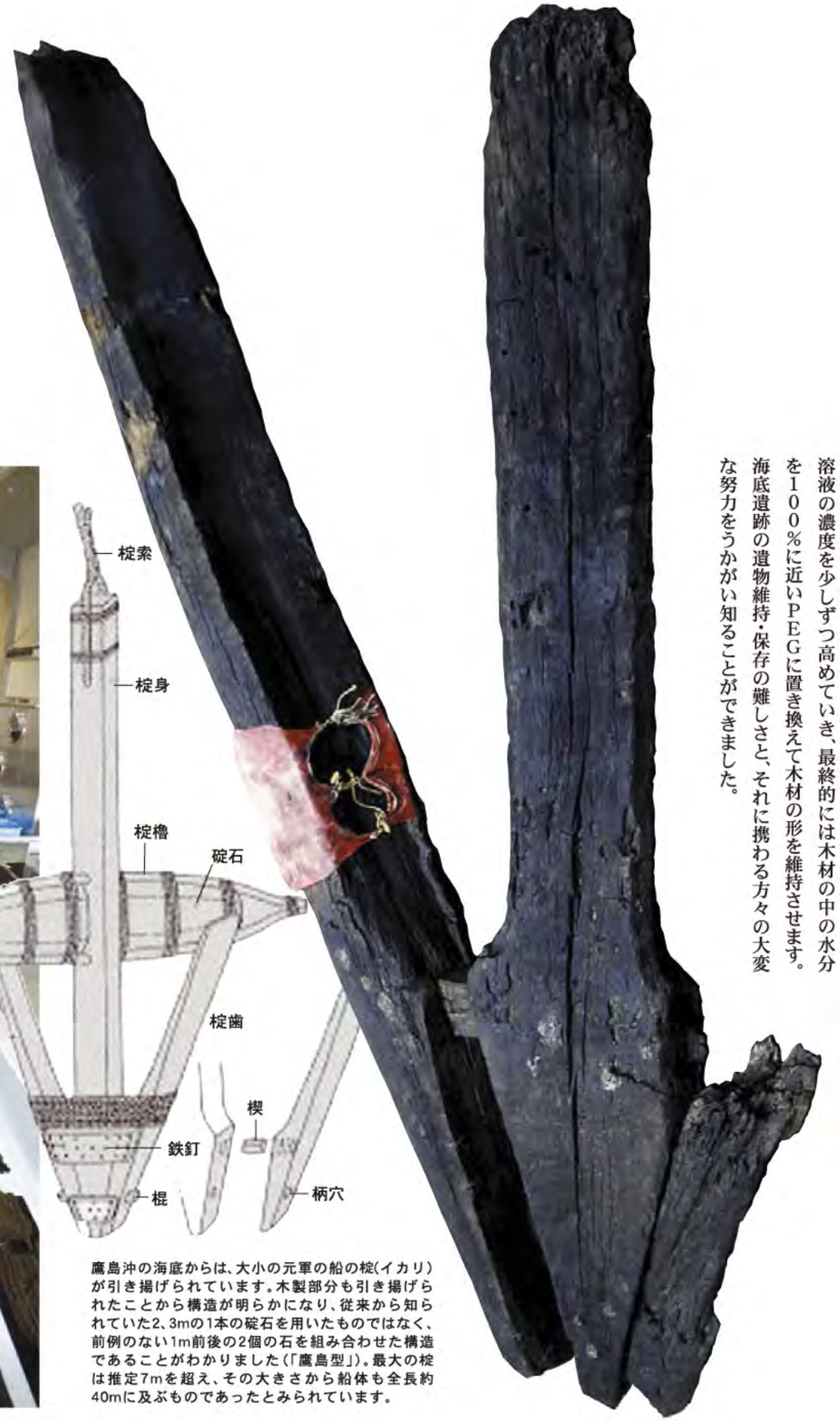
730年のタイムスリップ！海底から引き揚げられた船は今…

鷹島沖で発見された様々な遺物を見学した後は、松浦市立鷹島埋蔵文化財センターへ。昭和56年から開始された鷹島周辺の海での遺物調査と引き揚げ作業によって発見された数多くの貴重な元寇遺物がここで調査・研究・保存されています。

まず目に入ったのは、海底で平成6年に発見されたという木製の大碇。海中に沈んだ木材は、通常はフナクイムシ等の生物によって跡形もなく食べられてしまうので、こうして木材が700年間も残ることは奇跡に近いことなのだそうです。海底に沈んですぐにシルト(細かい泥)に埋れた場合のみ残るのだとか。

また、大きな水槽の中には、同じく海底から引き揚げられた船体の一部である木材が静かに横たわっていました。「長い間海底に埋もれていた遺物は、引き揚げてそのままにしておくと、腐食したり、塩分の結晶化に伴う変質、さらには急激な乾燥による収縮、変形を起こします。これを防ぐために、脱塩・保存処理などの作業を行い遺物の保存に万全を期しているんです。」と山下さん。

木製品の保存処理については、ポリエチレングリコール(PEG)という薬剤を木材にしみこませる方法(PEG含浸法)を行っており、あらかじめ10%程度のPEG水溶液をつくり、これに木材を浸し、徐々にしみこませていきます。そしてPEG水溶液の濃度を少しずつ高めていき、最終的には木材の中の水分を100%に近いPEGに置き換えて木材の形を維持させます。海底遺跡の遺物維持・保存の難しさと、それに携わる方々の大変な努力をうかがい知ることができました。



鷹島沖の海底からは、大小の元軍の船の錠(イカリ)が引き揚げられています。木製部分も引き揚げられたことから構造が明らかになり、従来から知られていた2、3mの1本の碇石を用いたものではなく、前例のない1m前後の2個の石を組み合わせた構造であることがわかりました(「鷹島型」)。最大の錠は推定7mを超え、その大きさから船体も全長約40mに及ぶものであったとみられています。

松浦市立鷹島埋蔵文化財センター

住所：〒859-4303 松浦市鷹島町神崎免146番地
TEL:0955-48-2098
URL:http://www.city-matsuura.jp/www/contents/1227860357670/index.html

松浦市立鷹島埋蔵文化財センターは松浦市立鷹島歴史民俗資料館に隣接しています。

ゲルの内部には鮮やかな装飾の家具があります

鷹島モンゴル村にあるゲル

刀の元の六地蔵（市指定史跡）には
赤い土が塗られています

ふるさとの海を望む対馬小太郎の墓（市指定史跡）

ふるさとへの想い熱く 使命を全うして亡くなった 対馬小太郎と兵衛次郎の墓

元寇ゆかりの海底遺跡を見学したあとに向かったのは鷹島町里免清水川の南側丘の上にある「対馬小太郎の墓」。小太郎は、対馬の地頭代・宗資国（助国）の家臣で、文永の役の際、対馬から元軍の襲来を大宰府へ報告するという使命を果たし、その後、博多の防衛戦に参加し、弘安の役でもめざましい活躍を果たした人物。鷹島襲撃の知らせに少弐景資（最前線の指揮官）の配下として奮戦中、重傷を負い自刃しましたが、小太郎はその時、「我が屍を埋めるに対馬を望むべき丘陵に於いてせよ」と言い残したといわれています。その後、人々は小太郎の遺言通りに、対馬・壱岐を遥かに望むこの丘にお墓を建てたのだそうです。別名「対馬様」とも呼ばれ親しまれてきたという小太郎。青い海の向こうのふるさと対馬への熱い想いが感じられます。

「対馬小太郎の墓」から南へ約60mほどのところを「刀の元」と呼び、六地蔵と五輪塔が祀られています。弘安の役で元軍の捕虜を斬首したところだと伝えられ、周辺は静かな田畑が広がっています。さらに南下すると《銅造如来坐像》（県指定有形文化財）が安置されています。江戸時代の終わり、原の海岸が魚群で海の色が変わる夢を、鷹島の漁師が見て網をおろしたところにかかった仏像だといわれています。元軍の船とともに海に沈んだのではないかと考えられていますが、なぜか貝などの付着が見られず、謎を残しています。戦争関連の遺跡や遺物のなかでもロマンを感じさせる「原の仏様」です。

また、鷹島肥前大橋と神崎免伊野利の浜をのぞむ丘の上には、小太郎と共に戦い鷹島で戦死した「兵衛次郎の墓」があります。

兵衛次郎の墓（市指定史跡）
鷹島肥前大橋が遠望できます

銅造如来坐像
（県指定有形文化財）

歴史の事実を乗り越えて、モンゴル国との交流をまちおこしにつなげる

元寇の悲しい物語にふれたあとは、「鷹島モンゴル村」へ足をのばしてみました。鷹島の最北端に位置する約1平方キロメートルのこの地は、元軍を迎撃したところと伝えられており、遠矢の原と呼ばれています。730年前には、元寇という世界史に残る事件がありましたが、今ではその歴史的な事実がきっかけとなり、鷹島とモンゴル共和国とは友好関係が築かれています。それを象徴する「鷹島モンゴル村」には、モンゴルから運んできた移動式住居のゲルがあり、宿泊もできます。ゲル内部は思っていたよりも広く、色彩も鮮やか。椅子やテーブルなども独特の模様で、遊牧民の特色ある文化にふれることができます。

神風、海底遺跡、モンゴルとの交流など、元寇は、鷹島はもとより日本の歴史を語る上で欠かせない出来事だといえるでしょう。神風が吹いた鷹島のことを「勝利の島」と表現する人もいるようです。もっと元寇のことについて興味がふくらんできた私は、その最初の舞台となった対馬を訪れることにしました。

鷹島モンゴル村から平戸方面の海を望む

元軍が日本を襲撃する際最初の攻撃目標となったのが対馬だった

鷹島で元寇ゆかりの地をたどったあと、福岡からジェットフォイルで対馬を訪れました。対馬は、元軍の最初の標的となった場所です。

文永11年（1274）10月、元軍の主力2万人（モンゴル人・漢人など）、高麗軍5600人、その他水主など15000人、合わせて4万もの大軍が、高麗に造らせた兵船900艘で対馬佐須浦（現在の小茂田地区）沖に押し寄せました。上陸したのはその一部でしょうが、迎え撃つ対馬地頭代宗資国（助国）は80余騎を率いて奮戦し、全員壮絶な戦死をとげたと伝えられています。その顛末を九州本土、大宰府に知らせようとしたのが、鷹島で登場した対馬小太郎と兵衛次郎でした。

2度目の元寇、弘安の役でも対馬は元の大軍（東路軍）に蹂躙されたと伝えられますが、その地は特定されていません。対馬島民に対する残虐行為が繰り返されたことでしょう。

そんな元寇の悲しい出来事が伝えられる対馬。まず長崎県立対馬歴史民俗資料館で、対馬の奥深い歴史を物語るさまざまな資料を見学したあと、元軍が最初に上陸した小茂田地区をたずねました。対馬海峡西水道に面した小茂田浜には、文永の役で戦死した宗資国を祭神として祀る小茂田浜神社が、ひっそりとたたずんでいます。宗資国が果敢に戦う勇姿を目に浮かべながら、拝殿に手をあわせました。ただし、実際の古戦場は、ここから少し奥に入ったところのようです。

地元の方にお聞きしたのですが、秋の大祭のときには、たくさんの参拝客で賑わい、出店では「ダンツケ餅」が売られているそうです。この餅は塩味の粒あんをまぶしてあるのが特徴で、元軍の突然の襲来に、あんこを餅の中に入れるヒマもなく、砂糖と塩を間違えたとか。真偽はともかくとして、おもしろい言い伝えですね。

なお、ここから厳原の方に車で少し走ったところに、宗資国の墓があります。樫根の法清寺には「お胴塚」が、下原観音山には「お首塚」があって、胴と首を別々に埋葬したという伝承が、戦いの壮絶さをあらわしているようです。

壱岐で元寇の決戦の地をめぐる

翌日、対馬と博多との中間に位置する壱岐に渡ることにしました。壱岐も、元寇の爪痕が残る島。壱岐にもこの島の歴史を「感動」と「発見」をもって楽しむことができる壱岐市立一支国博物館がありますので、まずはここで歴史を学んでみましょう。さて元寇のルートをたどる旅の最初に訪れた浦海海岸は、文永の役で対馬を侵略した元軍が、壱岐で最初に上陸した場所です。浦海海岸に上陸した元軍は、山を一気に駆け上り、壱岐の中心部まで侵攻したといわれています。今はそんな歴史が信じられないほど、静かで美しい海岸線です。

浦海海岸から幾多の山を越えると、のどかな河川敷が広がる風景に出会いました。ここは文永の役で最も激しい合戦場となったところで、今も古戦場跡や元寇に因んだ地名が残っています。「高麗橋古戦場」もそのひとつで、かつて高麗軍が架けたと伝えられる石橋があったそうです。

高麗橋古戦場のさらに奥にある、のどかな田園風景の広がる路傍にも「唐人原古戦場」の石碑を見つけました。勝本港から樋詰城のあったとされる新城神社あたりまでが文永の役での激戦地だったところで、樋詰城周辺には文永の役最大の激戦地「新城古戦場」があり、ここで壱岐を守っていた平景隆は戦死しました。

小茂田浜神社の拝殿には元寇の戦いの様子が描かれている

小茂田浜の海岸

壱岐市立一支国博物館

住所：〒811-5322 壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1
TEL:0920-45-2731
URL:http://www.iki-haku.jp/index2.html
■開館時間　8:45～17:30(入館は17:00まで)
■休館日　月曜(祝日の場合は翌日)
※ただしGWおよび夏休み期間中は無休、年末(12/29～31)
■観覧料　一般400(320)円、高校生300(240)円、小中学生200(160)円
(　)内は20名以上の団体割引料金　※そのほか各種減免制度あり

「宗助国公お胴塚」

「宗助国公お首塚」

長崎県立対馬歴史民俗資料館

住所：〒817-0021 対馬市厳原町今屋敷668-1
TEL:0920-52-3687
URL:http://www.pref.nagasaki.jp/t_reki/
■開館時間　9:00～17:00
■休館日　月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/28～1/5)
資料整理期間(年1回、10日間)
■観覧料　無料

新城古戦場跡

高麗橋古戦場跡

元軍が壱岐で最初に上陸したといわれる浦海海岸

平景隆の墓

唐人原古戦場跡

弘安の役で活躍した18歳の若き武将の英雄伝

弘安4年（1281）、4万もの元軍（東路軍）が再び対馬を襲い、次いで壱岐に攻め込んできた時、元軍を迎え撃ったのが、当時の壱岐守護代、弱冠18歳の少弐資時（しょうにすけとき）でした。船匿城（ふなかくしじょう）にいた資時は、わずかな軍勢で激戦を繰り広げましたが戦死。壱岐の人々は若き資時に感謝して墓を建て、今も大切に守り、英雄として語り継いでいます。

現在、資時の墓がある場所は「少弐公園」として整備され、展望台の近くには復元された防人の烽火台や、弘安の役の碇石と伝えられるものがあります。

また、資時がいた「船匿城居館跡」は、美濃谷観音堂の参道途中から右に入った人家の裏山にあたるところで、眼下に芦辺港と瀬戸浦の深い入江を一望できる場所にあります。

この近くには丸い石が数多く積まれた「少弐の千人塚」があります。これは元軍によって殺された多くの島民を弔うために生き残った人々がつくったもので、芦辺町には、ここの他にも箱崎中山触、箱崎新田、諸吉本村触、裏町、波止町にあり、当時の壮絶な様子を窺わせます。

その近くで、山の中にぽっかりと開いた穴（中山のかくれ穴）に遭遇しました。聞くところによると、元軍の襲来で山に逃げ込んだ島民はこの穴に身を潜めて、悪夢のような時が過ぎるのを待ったのだそうです。

730年前の事件の現場が今も生々しく残っていることに驚くと同時に、外国の大軍から襲撃された時の島民の計り知れない恐怖が伝わり、今を生きる私たちに平和の尊さを教えてくれているようでした。

少弐資時の墓

少弐公園の碇石

少弐の千人塚

元軍の襲撃を避けるために掘られたという中山のかくれ穴

少弐資時がいた船匿城居館跡

［コラム］

海底遺跡が語る、小値賀島の姿。

小値賀町歴史民俗資料館　学芸員　平田賢明

小値賀町歴史民俗資料館は、江戸時代後期頃に建てられた小田家の屋敷と庭園を展示施設の一部として修復し、新たに3階建ての展示・収蔵施設を併設して、平成元年（1989）に開館しました。

小田家は江戸時代に西海捕鯨の一翼を担った鯨組のひとつで、捕鯨業で財を成したのちは、酒造業や海藻加工業、平戸島や針生島における新田開発への進出など、幅広い経済活動を展開した小値賀を代表する豪商です。その一方で、商業活動で得た資金をもとに、まちの道や河川の整備を積極的におこなうなど、地域貢献に尽力した家柄としても知られています。

前方湾海底遺跡に沈む碇石の調査風景

前方湾海底遺跡から出土した貿易陶磁器と国産土器

館内には小田家に伝わる古文書や美術工芸品をはじめ、町内から収集した様々な漁具、農具、民具などが多く収蔵され、その一部が展示されています。なかでも考古資料は豊富な量を誇り、旧石器時代のナイフ形石器にはじまり、江戸時代の陶磁器に至るまで、町内各遺跡から出土した多種多様な考古資料を時代ごとに見ることができます。

小値賀における考古資料のなかで特筆すべきものに、平成16年度から23年度まで継続的に発掘調査が実施された二つの遺跡からの出土資料をあげることができます。

一つは小値賀島の東部に位置し、11～13世紀を主体とする前方湾（まえがた）海底遺跡、もう一つは前方湾海底遺跡に隣接し、16世紀末～17世紀初頭を主体とする山見沖海底遺跡からの出土資料です。前方湾海底遺跡からは、中国から日本に舶来した青磁や白磁などの貿易陶磁器が、中国の貿易船のものと考えられる、碇石とともに多数出土しています。また、山見沖海底遺跡からは中国で製作された陶磁器をはじめ、タイの四耳壺や東南アジアで製作された調理具のクロッなどが出土しています。

これらの調査成果から前方湾は、中世期において長きにわたり多くの貿易船が入港する拠点的な場所、つまり国際貿易港として機能していたことが明らかとなりました。

海底遺跡より出土した資料の一部は館内において常設展示されており、文献資料からは明らかにされてこなかった中世国際貿易港をもつ小値賀島の姿を知ることができます。

小値賀町歴史民俗資料館

住所：〒857-4701 北松浦郡小値賀町笛吹郷1931番地
TEL:0959-56-4155
URL:http://www.ojika.net/kankou/kn11.html
■開館時間　9:00～18:00（入館は17:30まで）
■休館日　月曜（祝日・振替休日の場合は翌日）
館内整理日（毎月25日、ただし日曜の場合は除く）および年末年始（12/28～1/3）
■観覧料　一般100円、高校生以下無料

ミュージアムの人々 ❶

山本美術館
館長 **山本一三**さん

心静かに時間を忘れて作品を楽しんでほしい。

長崎市から東へと走る国道251号。左右に広がる赤土の畑に鮮やかな新緑の馬鈴薯の葉がどこまでも連なり、やがてその向こうにおだやかな橘湾が見えてきます。山本美術館はこの美しい海岸を見渡すように静かに佇んでいます。きれいに手入れの行き届いた庭をぬけて館内に入ると、館長の山本一三さんと副館長であり奥様の静子さんが笑顔で迎えてくれました。

「平成8年に恩師に誘われて東京の浮世絵のオークションへ行ったのが始まりでした。最初は有名な広重や北斎の本物の作品を見たり触れたりできることに驚いたんですよ。」とにこやかに語る山本さん。

「その後、長崎古版画や臥牛窯作品と出会い、版画家の小﨑侃先生や臥牛先生とも知り合うようになり、次第に作品の数が増えていく中で、これらの作品を誰にでも楽しんでいただける個人美術館を建てたいと思うようになりました。それから10年後の平成18年に、この美術館を開館することができました。次女がその間に学芸員の資格を取得し、開館来、館長を務めていましたが、一昨年結婚したので、今は私が館長を務めています。そして、長崎市内へ嫁いだ次女は今でも顧問兼非常勤の学芸員として手伝ってくれています」。

落ち着いた雰囲気の館内には、小﨑侃の山頭火や長崎叙情詩の木版画シリーズ、長崎県無形文化財の十三代横石臥牛（臥牛窯・現川焼）の作品が常設され、さらに江戸時代の浮世絵や明治大正期の新版画等が季節ごとに企画展示されています。

「おかげさまで遠方からのリピーターも増えました。これからは新しい作風の作品も取り入れてみようかと思っています。地元の方や子どもたちにも気軽に芸術を楽しんでもらえる場所にしていければと願っています。作品を見ることもさることながら、ここのゆったりとした時間を過ごしに来ていただけると嬉しいです」。

また、ショップや喫茶室も併設され、館長ご一家のあたたかなおもてなしの気持ちが詰まった美術館です。

中央が企画展示室になっています

常設の小﨑侃作「山頭火シリーズ」

十三代横石臥牛
《冬山幻想壷 後立山連峰之図》

住 所：〒854-0302 雲仙市愛野町乙5886番地1　TEL：0957-36-3701
URL：http://www.yamamoto-museum.com/
■開館時間　10:00～18:00（入館は17:30まで）
■休 館 日　月曜（休日の場合は翌日）、年末年始
■観覧料　一般300円、高校生200円、小中学生は無料（但し保護者同伴に限る）

ミュージアムの人々 ❷

南島原市口之津歴史民俗資料館・海の資料館
館長 **原田建夫**さん

ドラマのある町、口之津に是非おいでください。

島原半島の南端に位置する南島原市口之津港。この港の入り口に建つ瀟洒な洋館が南島原市口之津歴史民俗資料館・海の資料館です。館長の原田さんの名物ガイド目当てに、この日もたくさんの来館者が次から次と訪れ、休む間のないほどの忙しさでした。

「いやあ、おかげさまで近ごろは毎日全国各地からお客様に来ていただいています」と、とても気さくに話される原田館長。

「口之津の港は3度日本の歴史に浮かび上がってきます。最初は大航海時代に南蛮船がこの港にやってきて、セミナリヨをはじめとした教育機関が設置され、天正遣欧少年使節を派遣するなど、西洋との交流拠点として栄えました。しかしご存じのようにキリシタン禁教令によって徹底的に弾圧され、島原の乱が起こりますが、これを機に日本は長い鎖国の時代へと入ることになります。」と口之津の歴史を世界の歴史の大きなうねりの中に位置づけ語り始められました。

「2度目は、明治時代になってから台頭してきた大財閥の三井物産が三池炭鉱の石炭を海外へ輸出するための港として口之津港を選んだんですね。例えばここには明治30年代の『おこんご遊廓』が出した請求書も展示されていて、当時の華やかな様子が伺えて興味は尽きません。と同時にその影では『からゆきさん』の名で知られるように、異国に売られていった女性たちの悲しい歴史もあり、その当時の貴重な写真もあります。」展示室の資料を実際に見ながら、わかりやすく説明下さいます。

「3度目は戦後になって国立口之津海員学校が設置され、質・量ともに『日本一を誇る外洋航路船員の町』として注目される時代ですが、これも世界経済の変化とともに口之津の船員数が減少してしまったんですね。」数奇な運命をたどってきた港町口之津の歴史を豊富な資料とともに、原田館長のお人柄がにじみ出るユーモアたっぷりの名ガイドで知ることができました。

歴史を物語る豊富な展示物

「からゆきさん」の写真

かつて税関として使われていた洋館が使われています
（県指定有形文化財）

住所：〒859-2502 南島原市口之津町甲16番7　TEL：050-3381-5089
URL：http://www.city.minamishimabara.lg.jp/kiji/pub/detail.aspx?c_id=54&id=72&pg=1
■開館時間　9:00～17:00
■休 館 日　月曜、年末年始（12/29～1/3）
■観覧料　一般200（150）円／高校生150（100）円／小中学生100（70）円
（ ）内は20名以上の団体割引料金

ミュージアムの人々 ❸

長崎歴史文化博物館 保存環境グループ ボランティア

受け継いだ文化を自分たちの手で次世代へ

長崎歴史文化博物館では、約150名のボランティアの皆さんが展示案内や各種業務支援、そして奉行所での寸劇などの活動を行っていますが、2011年(平成23)10月、新たに「保存環境グループ」が発足しました。保存環境ボランティア活動とは、多くの貴重な文化財を県民・市民の皆で守り、未来に引き継いでいくため、文化財の展示環境や、保存環境を整えていく活動です。県内では、長崎歴史文化博物館が初めて導入したシステムで、現在、4回の研修を修了した7名のボランティアの皆さんが活動しています。

この取り組みは「IPM(Integrated Pest Management：総合的有害生物管理)」を基本的な考え方としています。IPMとは、美術館や博物館で生物被害対策として行なわれてきた、「全館燻蒸」に象徴される化学薬品の使用に頼るのではなく、日常の管理を被害対策の基本とするものです。つまり慣例となっていたメンテナンスの方法をもう一度見直し、より安全で安心な環境にやさしい方法で文化財の維持管理を行おうというものです。

今日は月に一回の定期メンテナンスの活動日。また休館日でもあるので、開館中には作業が出来ない常設展示室や企画展示室の清掃が行われていました。そのほかの日にも随時、展示室内環境モニタリング(目視点検)等の活動を行っているそうです。

実際に活動の様子を覗いてみましょう。とくに専門的な道具や薬品は使わず、一つひとつ手作業で埃を取り払ったり、展示物の異変や虫等がいないかを点検していきます。担当研究員の関裕典さんに作業方法について尋ねてみると、清掃方法については、ボランティアの皆さんの自主性を尊重し、それぞれに工夫していただいているのだそうです。

最後に、本日の活動を終えたボランティアの皆さんにお話を伺いました。「館内はとてもきれいに見えますが、よく見ていくと意外に埃などがたまりやすいことがわかりました。この埃に虫が発生して貴重な文化財が破損する危険性を孕んでいるのかと思うと、私たちの仕事の大切さを実感します。先代から受け継いだ文化を自分たちの手で次世代につないでいくこの活動を誇りをもって行っています」。こうした地道な作業によって、私たちの貴重な文化的な財産が守られ次の世代に引き継がれていくのですね。

住所：〒850-0007 長崎市立山1-1-1　TEL：095-818-8366　URL：http://www.nmjc.jp/
■開館時間　8:30～19:00　■休 館 日　第3火曜日(祝日の場合は翌日)
■観 覧 料　常設展：一般600(480)円／小中高校生300(240)円( )内は15名以上の団体割引料金。
※企画展は別料金　※長崎県内の小中学生は無料。そのほか各種減免制度有。

ミュージアム 逸品紹介

❶ 長崎純心大学博物館

長崎純心大学博物館は、長崎市中心部より車で約30分、長崎バス「恵の丘」行きの終点に位置する長崎純心大学内にあります。本館の前身である純心短期大学長崎地方文化史研究所は、1982年に幅広い長崎の文化(長崎学)の調査研究、資料収集、情報の交換を行い、広く一般に公開することを目的とし設置されました。その後、1994年の長崎純心大学開学と同時に長崎純心大学博物館となり、2008年にリニューアルオープンしました。本館は長崎県内にあるカトリック大学博物館として、禁教令後の潜伏時代や浦上四番崩れなどのキリシタン関係資料をはじめ、長崎や本学にゆかりのある作家の作品や長崎の美術工芸などの長崎関係資料、原爆に関係する資料を中心に保存収集を行っています。今回は収蔵品の中から次の2点を紹介します。

牢面桶

「牢面桶(ろうめんおけ)」

ひとつは、最後のキリシタン弾圧と言われる浦上四番崩れの資料である「牢面桶」です。この面桶を使用していた女性は、本原郷一本木に住んでいました。この女性は明治3年(1870)から明治4年4月まで浦上から土佐国江ノ口牢に流され、牢内で使っていた食器がこの面桶です。牢内では、日々棄教を迫られ、食料も日に2回水のような塩だけの粥が面桶に入れられるだけでした。その後、浦上に戻ることができた女性は、この面桶を思い出の品として大事に使用していました。見る人によってはただの面桶かもしれませんが、この面桶には、信仰を守りぬいた人々の想いが詰まっています。

「牢面桶」について、永井隆は次のように読んでいます。

土佐のくに江ノ口牢にみ祖たち
飾もりし面桶の塗りはげにけり

聖女像

舟越保武《聖女像》

次に紹介するのは、舟越保武氏の彫刻で、大理石の台座に立つ50㎝程の小さなブロンズの《聖女像》です。この像は、舟越氏と本学関係者との縁の像です。1962年の日本二十六聖人列聖100年を迎えるにあたって、記念碑の建立を考えた初代学園長江角ヤスは、長崎県及び長崎市当局に理解を求め、舟越氏に記念碑の制作を打診するなど奔走しました。また、キリシタン研究者の副学長片岡弥吉は、舟越氏から二十六聖人の説明を求められ、長崎市坂本の大学病院下から西坂までを同氏と歩きながら、殉教者の苦難と信仰への想いについて説明を行いました。《聖女像》は、二十六聖人殉教記念碑の建立を支え続けた江角学園長へ、舟越氏から直接贈られたものです。

《聖女像》は親指を重ねて手を合わせ、静かに祈っています。この無心に祈っている姿は、まわりを包み込むような暖かさがありながらも、凛とした清らかな強さもあります。一見、誰にでも好かれる美しさではありますが、その中に秘めたシンの強さは、信仰心に裏付けられているようにも見えます。

謙虚で優しく、また精神的に強かった江角学園長の姿と重なって見えてくるような作品となっています。

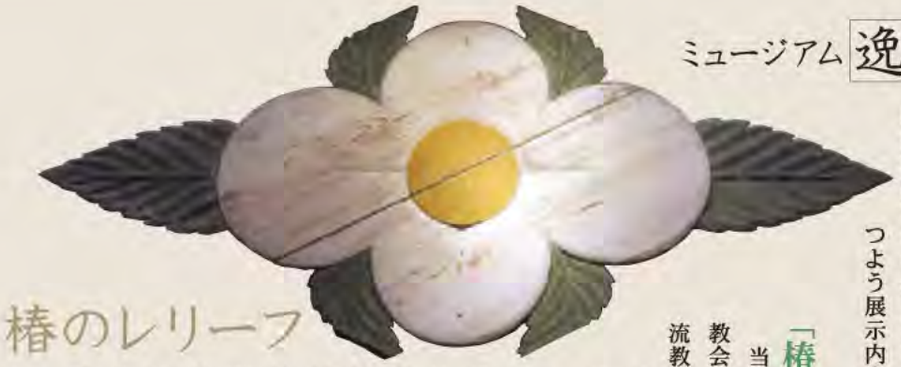
〔学芸員 松田亮子〕

住所：〒852-8558 長崎市三ツ山町235　TEL：095-846-0084　URL：http://www.n-junshin.ac.jp
■開館時間　平日10:00～16:00、土曜10:00～12:00
■休 館 日　日曜、祝日、学園創立記念日、学校の定める日、春・夏・冬休みの作業日
■観 覧 料　無料

ミュージアム 逸品紹介

❷ 五島観光歴史資料館

五島観光歴史資料館は平成元年11月に福江市制（合併により現・五島市）35周年を記念し、市民待望の観光歴史資料館として開館しました。平成18年9月には展示内容や館内映像の大幅なリニューアルを行いました。資料館では、五島の歴史・民俗資料等の収集、教育・文化の理解、さらに観光振興に役立つよう展示内容の充実を図ってまいりました。



椿のレリーフ

「椿のレリーフ」

当館の逸品として、まず久賀島・細石流教会の「椿のレリーフ」を紹介します。細石流教会は、数々の教会建築を手掛けた鉄川与助の設計により、大正9年（1920）に建立されました。

この椿のレリーフは教会内の格天井や小窓の装飾として、椿をモチーフに十字架を連想させるものとなっています。また、「椿のしま・五島」を連想させるものであり、現在、世界遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」に関する資料としても非常に興味深いものです。残念ながらこのレリーフが飾られていた細石流教会は過疎化のため昭和46年（1971）に廃堂となり現存していませんが、在りし日の教会の姿を思い描くことができる貴重な資料となっています。

「伊能家文書坂部貞兵衛書簡」

次に紹介するのは「伊能家文書坂部貞兵衛書簡」です。これは文化10年（1813）に伊能忠敬の測量隊が五島を測量した際、支隊長であった坂部貞兵衛が伊能忠敬へ宛てて書いた手紙です。

伊能家文書坂部貞兵衛書簡

坂部貞兵衛は、本名を坂部貞兵衛惟道といい、幕府の天文方下役として伊能忠敬の行った第五次測量（1805）から支隊長格として同行し、五島測量の際に病を得て福江の地で亡くなりました。

この手紙は10通からなり、5通目以降が五島測量の際に書かれたものです。その内容は、五島藩の領地に島が多いため測量がはかどらない様子や、若松日の島で体調を崩した貞兵衛の容態が悪化していく様子が粛々と書かれており、当時の測量の様子や隊員の行動が伺える第一級の資料です。

この手紙は元々、伊能家が所蔵していましたが、平成12年5月の伊能ウォーク福江開催にあたり、貞兵衛の没所として寄贈を受けました。現在は市の指定有形文化財として資料館が所蔵し、一部を展示しています。本年（2013）は伊能忠敬・坂部貞兵衛の五島測量から200年の記念の年にあたり、注目度の高い資料でもあります。

これらの他にも当館では、五島の歴史・文化に関する資料を多数展示しておりますので、ぜひ一度ご来館ください。

〔学芸員　出口健太郎〕

住所：〒853-0018 五島市池田町1番4号　TEL：0959-74-2300　URL：http://goto-rekisi.jp/
■開館時間　9:00～17:00 ※6～9月9:00～18:00　※入館は閉館30分前まで
■休 館 日　12月1日～4月30日の期間の毎週月曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12/29～1/3）
■観 覧 料　一般220（180）円、高校大学生170（140）円、小中学生110（90）円
（　）内は20名以上の団体割引料金。資料研究室のみの利用は無料。そのほか各種減免制度あり。

ミュージアム 逸品紹介

❸ 松浦史料博物館

公益財団法人松浦史料博物館所蔵史料の大部分は、鎌倉時代以降、平戸松浦家に代々伝わるもので、史料総数は約3万点です。内、国指定重要文化財1件、長崎県指定有形文化財21件が含まれています。今回、その中から次の2点を紹介します。

紺糸威肩白赤胴丸

「紺糸威肩白赤胴丸」一領（国指定重要文化財）

この胴丸（甲冑の一種）は、平戸松浦家第26代松浦鎮信（号法印1549～1614）が、豊後国（現在の大分県）の領主大友義鎮（号宗麟1530～1587）より贈られたものです。鎮信の鎮は、義鎮の一字で、二人は主従関係を結び、間柄は大変親密なものがありました。

兜は四十八間阿古陀形で、48本の各筋は鋳金の覆輪で仕上げ、眉庇には鍬形台を取り付けて、三鍬形を立てています。胴の威は白赤白糸で、草摺の裾までは、紺糸で威しています。大袖も仕立ては胴と同様です。

端正な小札、鍬形台の菊花唐草文透の緻密な彫金、整った品格ある姿かたち、韋所を包んだ牡丹獅子文の染韋は実に鮮やかです。黒漆塗で盛り上げられた小札の形、幅の狭い威、胸板の形状などに、室町時代後期の胴丸の特徴が色濃くあらわれています。

「伝オランダ船船首飾木像」二体（長崎県指定有形文化財）

二体の木像（手に巻物を持つ人物、縦笛を吹く人物）は、平戸の朱印貿易商人であった小川家に伝えられ、明治元年（1868）松浦家の菩提寺、臨済宗興国山正宗寺に移されました。

さらに明治43年（1910）、ロンドンで開催された日英博覧会に出品の後、松浦家に納入されたものです。

この木像は、いずれも帆船の船首に飾られたもので、船の守り神として海難を防ぎ、航海の安全を祈ったものといわれています。ペイントが剥げ落ち、傷ついた姿に、万里の波涛を乗り越えた、当時の命がけの航海の様相が偲ばれます。日蘭貿易当時を物語る、国内に数少ない貴重な史料です。

松浦史料博物館所蔵の「オランダ船図」には、船首、船尾、船端に多数の木像が描かれています。現存する一番有名な船飾り木像は、1600年に豊後国臼杵に漂着しましたデ・リーフデ号の船尾に飾られた、オランダの神学者エラスムスの像です。東京国立博物館に保管されています。

〔館長　木田昌宏〕

伝オランダ船船首飾木像

住所：〒859-5152 平戸市鏡川町12番地　TEL：0950-22-2236　URL：http://www.matsura.or.jp/
■開館時間　8:30～17:30
■休 館 日　年末年始（12/29～1/1）
■観 覧 料　一般500（400）円、高校生300（240）円、小中生200（160）円
（　）内は20名以上の団体割引料金、身体障害者割引有。

自慢の体験プログラム……❶

宇宙の神秘を身体に感じてほしい

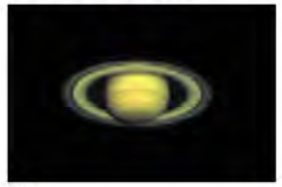
――コスモス花宇宙館

諫早市の北部、多良岳に登る中腹、白木峰高原にあるコスモス花宇宙館。標高350mに位置するこの施設は、九州でトップクラスの暗い宙と360度の視界を誇り、天体観測には絶好のロケーションにあります。天体観測室は普段は大きな丸い屋根で覆われていますが、なんと観測する際には電動で屋根が移動し、完全に全天周の夜空を仰ぐことができます。3台の大型望遠鏡と1台の太陽観測用望遠鏡が設置されていて、天気の良い日には昼夜を問わず宇宙の観測ができるそうです。

訪れたこの日もよく晴れていて、まずは空いっぱいに広がる幻想的な天の川に圧倒されます。そしてスタッフの方に大きな望遠鏡の焦点を調節していただくと、次々と信じられないような美しい星たちの姿を生で見ることができました。それはまさに天然のプラネタリウム。わかりやすいものでは土星の外側の輪や木星の縞模様まで見ることができますし、時期によっては長い尻尾をつけた彗星も観察することができるそうです。私たちはこんなにも美しい宇宙の中に生きていると思うと胸が熱くなりました。

また、美術フロアーには郷土画家・荒木幸史氏の「秋桜画」コレクション展示室と、県内外の作家による企画展示を行う回廊アートギャラリーがあります。

アンドロメダ大銀河M31



土星

荒木幸史「秋桜画」コレクション展示室

住 所：〒859-0307 諫早市白木峰町828-1
TEL：0957-23-9003
URL：http://www.city.isahaya.nagasaki.jp/pe/spacehall.htm
■開館時間　火・水・木曜 10:00～20:00、金・土・日曜 10:00～22:00
※気象事情やイベントで開閉時刻を変更する場合あり
※団体での入場の場合は、1週間前までに要予約
■休 館 日　月曜（但し月曜日が祝祭日の場合は開館、翌平日が休館）年末年始(12/29～1/3)
■観 覧 料　無料

自慢の体験プログラム……❷

つくって味わう陶磁器の魅力

――波佐見町陶芸の館・観光交流センター

江戸時代から焼き物で有名な波佐見町。今日はその波佐見町陶芸の館・観光交流センターにて陶芸体験ができるとのことで行ってきました。今回体験していただくのは、NBC長崎放送ラジオパーソナリティの栗原優美さん。焼き物体験ははじめてということでドキドキでしたが、陶芸家の林潤一郎先生の優しくユーモラスな指導で、見る見るうちに器の形が現れてきます。

「時計の六時の場所からゆっくりと持ち上げて八時の位置で放します。あわてずゆっくりいいんですよ。力を入れずに、ふんわり広げていきます」と先生から言われるままにろくろの上で回る柔らかい土を触っていると、不思議と器になっていきます。

「先生の教え方がいいんでしょうね。はじめからこんなにできるなんて思ってもみませんでした」と大喜びの栗原さん。

「焼き物は成るようで成らない面白さがあります。しかし初心者の方でもちゃんと使えるお茶碗やお皿ができるんですよ。少しぐらい形がゆがんだほうがかえって楽しいんです」と林先生。

つづいて素焼きの茶碗に絵を描く「染め付け」に挑戦しました。呉須という青色の顔料で自由に絵を描いていきます。栗原さんは名前にちなんで栗の絵を描きました。これも生まれて初めての体験でしたが、先生の指導で暖かみのある素敵な絵柄ができあがりました。

ここで作った器は2～3週間後に焼き上がって自宅まで送られてきます。

「これが自分でつくった器だなんて信じられないくらいうれしいです。とってもいい想い出の品になりました」と送られてきた器に大満足の栗原さんでした。

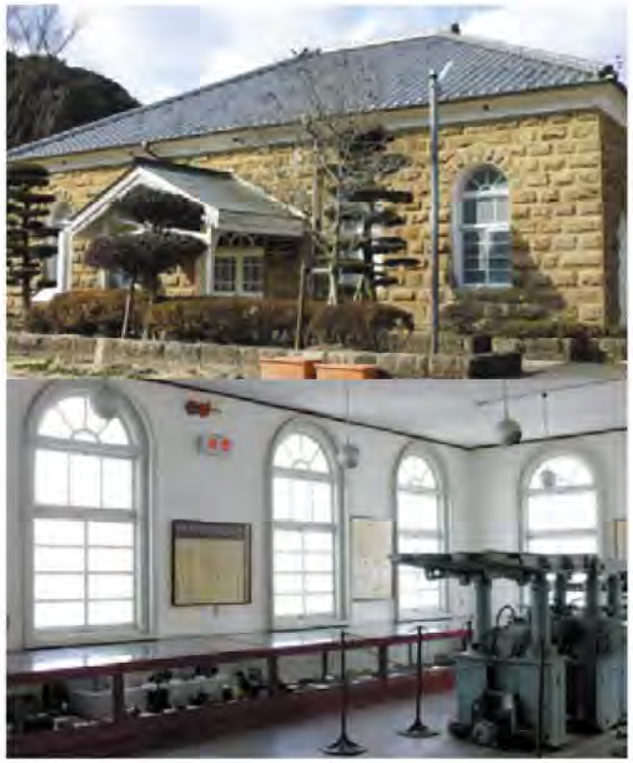
住 所：〒859-3711 東彼杵郡波佐見町井石郷2255-2
TEL：0956-85-2214
URL：http://www.hasami-kankou.jp/
■開館時間　9:00～17:00　■休館日　元日　■観覧料　無料
■体験　団体による見学や絵付け・ロクロ体験ご希望の方は、一週間前まで電話やFAXにて申込が必要。絵付け・ロクロ体験は有料。

建物探訪……❶

世知原町の歴史を刻む 県北唯一の石造洋館

――佐世保市世知原炭鉱資料館

県指定文化財



明治末期から大正初期に建設された県北地区に現存する唯一の石造洋館。旧松浦炭鉱事務所は現在、江戸時代にはじまる世知原炭鉱の歴史などを紹介する資料館として活用されています。

佐世保市世知原町は、明治24年(1891)から石炭の町として発展しました。全盛期には5つの炭鉱ができ、県内第2位の採炭量を誇り、掘り出された石炭の量は800万トンともいわれています。しかし産業構造の変化によって石炭の需要が激減し、世知原の炭鉱は昭和45年、78年間にわたる歴史に幕を閉じました。

この建物は、当時炭鉱事務所として使用されていたもので、明治45年(1912)の設計図が残っています。外壁は近郊で産出したといわれる砂岩ブロックを積み重ねたもので、重厚な雰囲気をかもし出しています。また、上部をアーチにした美しい大きな窓も特徴です。洋風建築として、また炭鉱の歴史を物語る上で貴重な遺構でもあります。

近くには石炭を鉄道貨車に積み込むためのホッパー跡や旧三坑坑口、ボタ山も残されています。

炭鉱専用鉄道で使用された合図灯

当時の坑夫たちの厳しい労働環境がわかるパネル展示

実際に採炭に使われていた道具も多数展示されています

地学・地質室には世知原にどのようにして石炭が出来たのかを解説しています

住所:〒859-6408 佐世保市世知原町栗迎83番地5
TEL:0956-76-2887(直通)
URL:http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/www/contents/1118406433921
■開館時間　9:00～17:00(入館希望者は隣接の社会福祉協議会事務所に連絡のこと:TEL0956-76-2279)
■休 館 日　年末年始(12/29～1/3)　■観 覧 料　無料

ウェブサイト「ミュージアム県ながさき」を開設

県内ミュージアム施設の一体的な情報発信を目的とし、ウェブサイト「長崎ミュージアム連携促進事業 ミュージアム県ながさき」が「長崎の歴史と旅の遊学サイト　旅する長崎学」内に開設されました。平成24年3月に発行した『長崎県ミュージアム・ガイドブック』掲載161館の概要、基本情報のほか、追加施設情報、各施設からの展覧会情報等のお知らせ、各種コラム等を掲載しています。県内ミュージアム施設の見学時にご活用下さい。
http://tabinaga.jp/museum/

親和アートギャラリーがオープン

ふくおかフィナンシャルグループ設立5周年を記念し、これまで親和銀行が収集してきた美術作品を公開する「親和アートギャラリー」が平成24年4月5日にオープンしました。岡田三郎助や藤田嗣治をはじめとする日本近現代美術を代表する作家による作品や、肥前陶磁の名品、ロシアイコン等約140点が紹介されています。

■開館時間:10～16時(入館は15時半まで)■休館日:土日祝日、年末年始12/31～1/3但し年末年始を除く第一土曜日は開館　■入館無料但し入館には親和銀行本支店窓口配布の「鑑賞券」が必要　■住所:〒857-0806佐世保市島瀬町4-24　■問い合わせ先:親和アートギャラリー TEL:0956-23-4856

重要文化財(建造物)旧出津救助院が公開されます

明治12年より外海で布教活動を行いながら、地域の振興に努めたフランス人宣教師ド・ロ神父ゆかりの施設である旧出津救助院(重要文化財:授産場、マカロニ工場、鰯網工場。県指定史跡:旧製粉工場、薬局。※内、鰯網工場は長崎市ド・ロ神父記念館としてすでに活用)が、平成19年度からの保存修理事業を終え、本年春に一般公開されることとなりました。施設内では、ド・ロ神父ゆかりの品々が展示されるほか、ド・ロ神父が地域の人々と開墾した畑で出来た農作物等を加工する農作業、織物、食等の各種体験プログラムやコンサート等が開催される予定です。なお、本施設については、県内ミュージアムの連携及び活性化を目的とする「長崎県ミュージアム連携促進事業モデル事業　外海地区を端緒とするキリスト教文化とミュージアム」の事務局としても活動中です。

■住所:〒851-2322長崎市西出津町2696-1 ■問い合わせ先:ド・ロさまの家 TEL:0959-25-1002

実務者研修を開催しました

昨年度に引き続き、長崎県ミュージアム連携促進事業実務者研修(兼長崎県博物館協会職員研修)を平成24年12月11・12日に開催しました。今年度は、博物館や美術館等における魅力ある作品展示・ディスプレイをテーマとして開催し、のべ102名の県内ミュージアム関係者に参加いただきました。

東京国立博物館デザイン室長木下史青氏と、佐賀大学非常勤講師、有田窯業大学校特別講師でもある雲仙市在住のデザイナー城谷耕生氏を講師としてお迎えし、様々な事例のご紹介等貴重なお話をいただきました。また、4月にリニューアルオープンしたばかりの長崎歴史文化博物館常設展示室について岡本健一郎研究員に、長崎県美術館の展示方法等について野中明事業企画グループリーダーに、現地見学を交えながら説明いただきました。実務者研修については来年度も開催の予定です。

本誌は、長崎県内のミュージアム施設の一体的な情報発信を目的として刊行するものです。本年度より定期的に発行し(平成25年度は年2回発行予定)、県内ミュージアム施設の情報を県内外の皆様にお届けいたします。県内ミュージアムに関する情報などがございましたらご提供ください。
■連絡先:長崎県企画振興部　文化観光物産局 文化振興課 文化施設振興班 TEL:095-895-2762

平成25年度 企画展等のご案内 ＊会期や内容は変更になることがあります。

長崎歴史文化博物館

神戸市立博物館所蔵名品選
和ガラスのきらめき
―びいどろの光・ギヤマンの粋―
4月6日（土）－5月26日（日）

江戸っ子浮世絵師 **歌川国芳展**（仮称）
6月8日（土）－7月24日（水）

恐竜クンがやってくる！
恐竜の世界展（仮称）
8月10日－10月14日（月・祝）

重要文化財指定記念
朝鮮通信使と対馬藩
～宗家文庫より見えるもの～（仮称）
10月26日（土）－12月15日（日）

皇帝からの贈りもの
～やきものが語る日中交流～（仮称）
12月28日（土）－H26年3月3日（月）

LEGOブロックワールドNAGASAKI
3月10日（月）－4月12日（土）

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
TEL 095-818-8366
http://www.nmhc.jp/

長崎県美術館

日本のアニメーション美術の創造者
山本二三展
4月20日（土）－6月23日（日）

現代スペイン・リアリズムの巨匠
アントニオ・ロペス展
6月29日（土）－8月25日（日）

岩合光昭写真展どうぶつ家族
8月10日（土）－9月1日（日）

中島潔「生命の無常と輝き」展
10月5日（土）－11月17日（日）

生誕100年記念**富永直樹展**
11月23日（土・祝）－12月23日（月・祝）

葉祥明の世界展～Feel the Happiness～
H26年1月2日（木）－2月14日（金）

ウォルト・ディズニー展
2月22日（土）－4月6日（日）

〒850-0862 長崎市出島町2-1
TEL 095-833-2110
http://www.nagasaki-museum.jp/

壱岐市立一支国博物館

壱岐の古墳 重要文化財展
H25年3月22日（金）－5月26日（日）

壱岐の自然展
6月21日（金）－8月25日（日）

原の辻遺跡の全貌展
9月6日（金）－10月2日（水）

しまごと芸術祭
10月4日（金）－11月24日（日）

ジュディ・オング倩玉（せいぎょく）展
12月13日（金）－H26年2月15日（土）

海都くん　人面石くん　はるのちゃん

〒811-5322 壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1
TEL 0920-45-2731
http://www.iki-haku.jp/

思わず旅したくなる歴史ガイドブック
長崎県企画「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」

旅する長崎学「歴史の道編」

各号600円（税込）
A5判／64ページ／オールカラー

第18号
平戸街道ウォーキング

第19号
島原街道ウォーキング

第20号
長崎街道ウォーキング

ご購入方法
- お近くの書店でご注文
  （取り寄せになる場合は、多少お時間がかかります）
- 出版社からご購入（送料・代金の振込手数料はお客様負担）
  長崎文献社　TEL095-823-5247　FAX095-823-5252
- インターネットでご購入（大手書店、または長崎文献社のネットショッピングをご利用ください）

お問い合わせ
- 「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」について
  長崎県文化振興課　TEL095-895-2762
- 「旅する長崎学」について
  長崎文献社　TEL095-823-5247

「長崎の教会群」を世界遺産へ！

平成27年の世界遺産登録実現を目指しています。
「長崎の教会群」を世界遺産へ！ 検索
長崎県世界遺産登録推進室 TEL：095-894-3171

大浦天主堂（長崎市）

ネットで学ぶ長崎学もチェック！
長崎県の歴史と旅の遊学サイト「たびなが」
詳しくはWEBで
たびなが 検索